

令和6年度 安芸森林管理署の重点施策

～ 地域の林業成長産業化に向けた取組 ～

令和 6 年 4 月

安芸森林管理署

1. 地域の安全・安心を守る治山対策の強化

国土の保全、水源のかん養など公益的機能の高度発揮に資するため、各種治山事業を実施(R6年度12箇所(15.8億円))

- 集中豪雨等の増加で多発化する自然災害から安全・安心な暮らしを守るため、治山事業を実施
- 民有林野内で発生した大規模な土砂崩れ等について、国で事業(民有林直轄治山事業)を行っており、地域住民の方が安全で安心して暮らせる国土づくりに取り組む。

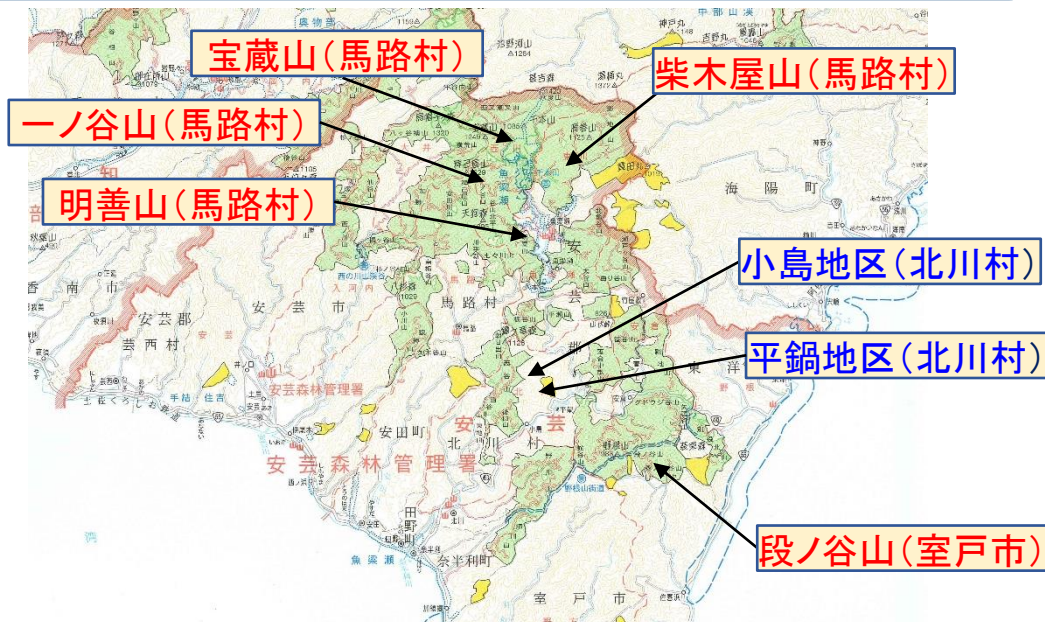
令和6年度治山事業の実施予定地区

国有林直轄治山

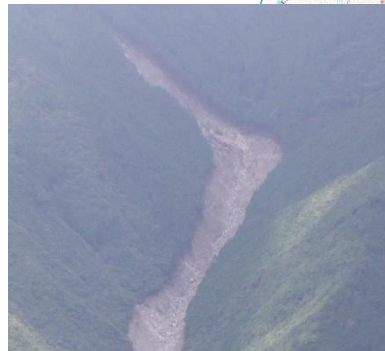
予定地区	箇所数	事業費
段ノ谷山(室戸市) 明善山、一ノ谷山、柴木屋山、 宝蔵山(馬路村)	5	4.2億円

民有林直轄治山

予定地区	箇所数	事業費
平鍋地区(北川村) 小島地区(北川村)	7	11.6億円



【段ノ谷山(1161)】



【北川村平鍋地区】

2. 伐採・造林のトータルコストの削減

新しい技術導入や、コスト削減の取組を進め、その成果を民有林に広げることで地域の林業成長産業化に貢献

- 下刈の改善 回数の見直し、冬下刈の実施
- 植栽本数の見直し 保安林の植栽本数に合わせ、2,000本/ha程度に見直し
- 獣害対策の改善 増加中のノウサギ被害に対し、大苗の導入や単木防護ネットの導入、L形防護ネット(安芸森林管理署開発)との併用
- 生産・販売事業の改善 目標生産性の設定、作業日報プログラムの導入提案

■ 一貫作業システムと従来システム



<一貫作業システムのポイント>

1. 伐採・搬出から植栽・下刈までの全体作業工程の最適化
2. 伐採後、高性能林業機械(プロセッサ、グラブ等)を活用し、集材作業中に枝条等の除去を実施。
3. フォワーダや架線の帰り荷を活用し苗木を運搬。時期を選ばず植栽が可能なコンテナ苗を活用し、伐採後時間をおかずに植付を完了。
4. 一括発注により機械の搬送費や間接費の削減も可能。

■ 安芸森林管理署のコンテナ苗導入本数

(単位:千本)

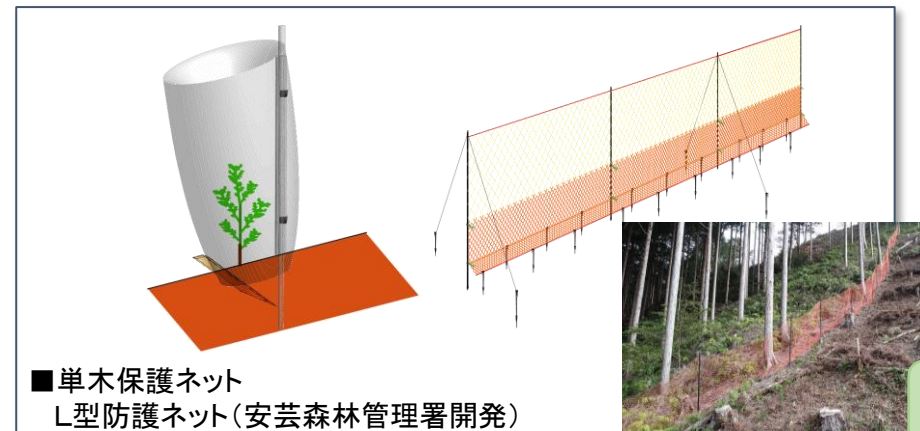
コンテナ苗は裸苗より幅広い期間で植栽が可能なことから、H29年度から新植では100%使用

また、普通苗より大きな苗を使用することで、シカ等の食害に会う期間を短く、下刈回数も削減が期待される大苗を導入予定



コンテナ苗

大苗



■ 単木保護ネット

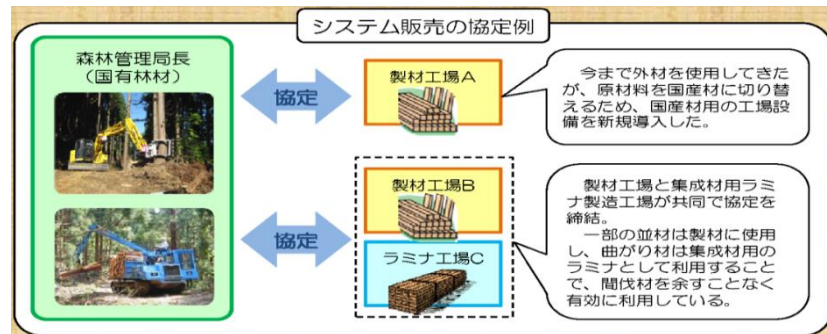
L型防護ネット(安芸森林管理署開発)

3. 国有林材の安定供給

公益重視の管理経営を推進しつつ、地域の林業・木材産業活性化のため木材の持続的かつ計画的な供給に努める

- 民有林と国有林の連携や立木販売の強化等により、国有林材7.5万m³(製品(丸太)換算)を安定供給 (R5年度6.8万m³(製品4.4万m³、立木2.4万m³)→R6年度7.5万m³(製品4.4万m³、立木3.1万m³))
- 施業団地等の協定を締結し、民有林と国有林の連携による国産材の安定供給を推進
- 複数年に渡る安定した事業量の確保による林業事業体の育成を後押しするため、複数年契約を実施 (R5年度は3カ所契約済み。R6年度は1カ所を予定。)

■ 国有林材の安定供給システム販売の仕組み



※システム販売の対象は、製品(丸太)と立木。協定の相手方は、製材工場、木材加工業者、原木市場、素材生産業者等。
 ※立木のシステム販売は、複数年(3年以内)の協定、搬出期間は売買契約から原則3年以内。

■ 安芸森林管理署の国有林材の供給量

(単位:万m³)

	R2	R3	R4	R5	R6 (予定)
供給総量(製品換算)	4.8	4.8	4.3	4.1	7.5
製品販売	4.3	4.2	4.0	3.2	4.4
システム販売	3.5	3.0	2.8	2.3	3.2
立木販売	0.7	1.0	0.4	0.9	4.4

※立木の製品換算率は70%

■ 安芸森林管理署の複数年契約地区

事業年度	所在地	国有林名	面積(ha)	予定数量(m ³)	備考
R5 ~ R7	北川村	笹谷山	97	8,000	
R5 ~ R7	室戸市	桑ノ木谷山	146	11,500	
R5 ~ R6	馬路村	南亀谷山	39	4,500	
R6 ~ R8	北川村	笹谷山	83	10,000	

4. 森林・林業を担う人材育成(現地検討会の開催)

林業事業体の育成、市町村林務担当者のスキルアップに向け、各種現地検討会を開催

- 資源の有効活用と収益性を高め持続的な林業経営に向けた取組として、令和4年度から継続して生産事業体と木材市場による素材生産における採材技術の向上を目的とした現地検討会を開催
- 受注者が工事現場の映像・音声を離れたところにいる監督職員等にリアルタイムで配信することで立会等を行うことが可能となる、遠隔臨場の現地検討と意見交換を魚梁瀬地区で実施
- 将来の森林・林業を担う人材育成を目的に、林業関係の高校、大学等を対象にインターンシップの受入れを実施

採材技術向上を目的とした現地検討会(令和5年9月12日)



丸太を切る位置を決める

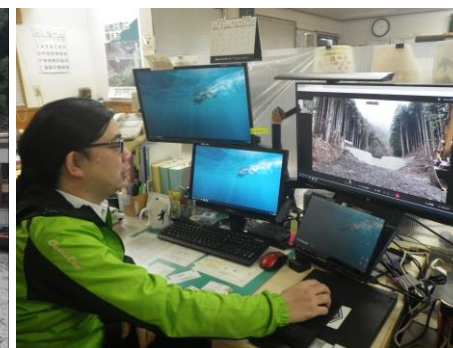


長さは適当か、曲りはないか?

遠隔臨場の現地検討会(令和6年1月19、22日)



現地での説明



事務所での遠隔臨場の様子

令和6年度の現地検討会開催予定

開催予定月	検討会名	国有林名	主催
令和6年10月	素材生産における採材技術の向上を目的とした現地検討会	未定	安芸森林管理署
令和6年11月	ニホンジカ等獣害対策(ほかパトシステム外)に関する現地検討会	未定	

※ 上記は、現地事情や事業進捗状況等により追加や変更する場合があります。

5. 地域と連携したシカ被害対策の推進

近年深刻化しているシカによる被害による森林への被害を軽減するため、以下の取組を実施

- 平成25年12月に馬路村と、平成30年8月に北川村と協定を締結し、①囲いわな等の無償貸与、②国有林の入林手続の簡素化、③捕獲技術支援により、民有林と国有林が一体となってシカ被害対策を推進
- 北川村との協定については、笠松式くりワナの無償貸与に加え、R2年度より箱ワナ・囲いわなの無償貸与も実施
- R6年度からは馬路村にも笠松式くりワナの無償貸与を開始
- これらの取組により、安芸森林管理署管内のシカ捕獲頭数は、平成25年度10頭から令和2年度には420頭をピークに、令和5年度は110頭と落ち着きつつある

■ ニホンジカの捕獲頭数の推移(安芸森林管理署管内)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
捕獲頭数	10頭	41頭	64頭	96頭	127頭	151頭	268頭	420頭	250頭	154頭	110頭

※ H28年度に箱わなに加え、くりわなを導入

■ 囲いわな(こじゃんと1号)



■ (笠松式)くりワナ



6. 【日本の美しい森】千本山風景林の観光資源としての活用

千本山風景林はその優れた自然景観から、全国で93箇所「日本の美しい森 お勧め国有林」や「中芸地域日本遺産～森林鉄道から日本一のゆずロードへ～」の構成要素に指定されています。

また、昭和9年に牧野富太郎博士が訪れ、当時の魚梁瀬営林署の事業所に宿泊し、植物の採取指導を行ったことが記録されています。

今から90年前に牧野富太郎博士の歩いた道を遊歩道として活用し、地域と協力して観光資源としての魅力の向上を図ります。



【橋の大杉】



【遊歩道整備状況】



【入口付近】



【魚梁瀬スギ】